



岩沼市マスコットキャラクター
岩沼係長

たかおせいせき 高大瀬遺跡

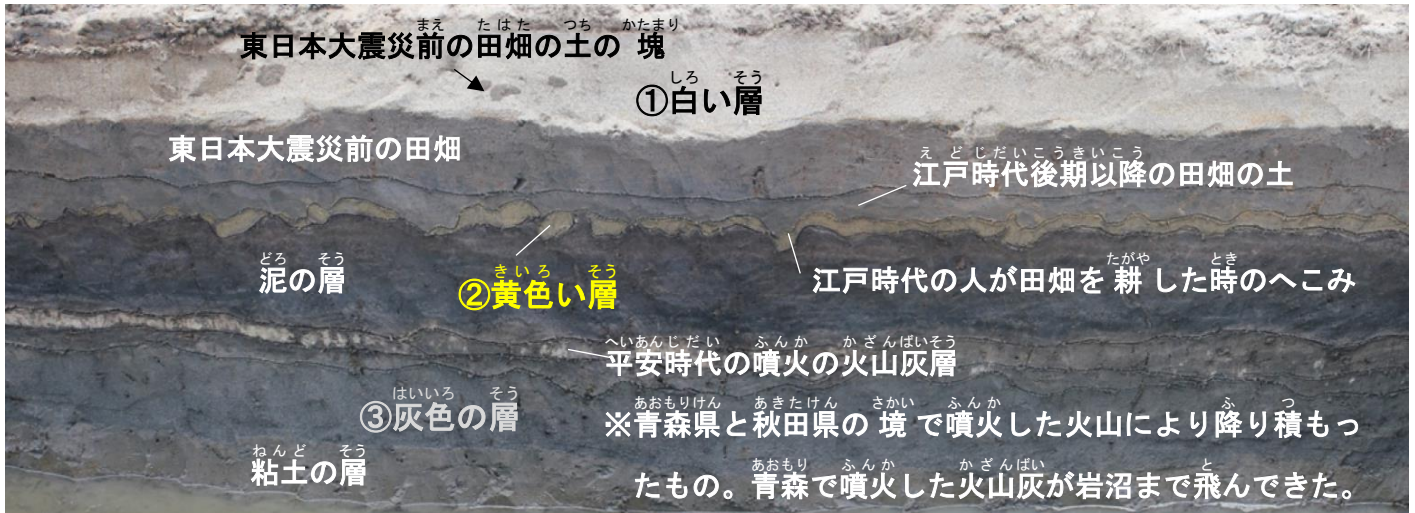
ひがしにほんだいしんさい ふつこう めざ えんがんぶ こうじ すす
東日本大震災からの復興を目指し、沿岸部で工事が進められる
なか はくつちょうさき だんめん か こ さいが
中、岩沼市の高大瀬遺跡の発掘調査で、土の断面から過去の災害の
こんせき はつけん
痕跡が発見されました。



つち だんめんず かいせつ 土の断面図の解説

砂の層展示中!

地上



つなみ こんせき 津波の痕跡

① 白い層…東日本大震災で運ばれてきた土砂。土砂が震災前の田畑の土をえぐりとり、でこぼこになっている。20 cmほどの厚さがあり、巻き上げられた田畑の土の塊が所々に見える。

② 黄色い層…厚さ 5 cmほどの細かい砂の層。1611年(慶長16)に発生したと記録に残る津波が運んできた土砂である可能性がある。※今から約400年前。江戸時代後期以降の人々が田畑をつくるために黄色い砂の層を削り取ったことで、実際の厚さは不明。へこんでいる所は当時の人や動物が踏み込んだ跡と考えられる。

③ 灰色の層…厚さは 20 cmほどの砂の層。水の影響を受けて青っぽくなっている。下の茶色い粘土の塊が混じる。869年(貞観11)に発生したと記録に残る津波が運んできた土砂である可能性がある。※今から約1150年前。

だんめんず
断面図からわかること

つなみ なんども き
津波は何度も来ている!